

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790200141		
法人名	社会福祉法人 心愛会		
事業所名	グループホーム ハーモニー松長		
所在地	福島県会津若松市一箕町松長5丁目11-31		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.Kaigo-fukushima.info/fukushima/top/d_o
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク
所在地	福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	平成23年12月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・開設して1年、お客様に安全で安心した生活が過ごせるよう心がけ、特にお客様との信頼関係を築けるよう、日々お客様に寄り添いコミュニケーションをとることで、ご家族様にも松長に来て元気になるって良かったと思っていただけるよう努めております。 ・掃除や調理、野菜の下ごしらえ、盛り付け、食器洗い、洗濯たたみなどお客様に出来ることを行って頂き、出来ない部分を支援するように心がけております。 ・職員間の人間関係が良好で、気付きを即共有し他職種との連携が取れている。 ・施設内研修としては、認知症についての知識を深めるとともに、自分たちのケアを見つめなおし、お客様へより良いケアを提供することが出来る様スタッフ全員で取り組んでおります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事故防止委員会、排泄委員会、レクリエーション委員会等の、専門委員会を設けて、十分な話し合いを行い、検討されたことを実践に繋げ、より良いサービス向上を目指している。 職員からの提案で、手書きの手紙を家族に送り、一人ひとりの状態や近況を、詳しく報告しているため、家族とのコミュニケーションが図れ、良好な関係が築かれている。 事業所は、開所して間もないため、地域との交流関係はまだ、あまり築かれていないが、広報を配布したり、学校避難の家になるなど、積極的に働きかけて、関係を深められるように、努めている。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)		項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します	
項 目	取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	項 目	取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+) + (Enter+)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人目的でもある「一人ひとりが大切にされ、生きる喜びの分かち合える社会を目指します」を実践し、管理者及び職員はケアの基本を明確にし、日々の暮らしの中、その人らしく安心した生活が送れるよう努めています。	毎朝のミーティング時に、管理者と職員は理念と事業所で作り上げた行動基準を声に出して読み上げ、確認し合って、実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月、施設広報を作成し、申込み者や見学の方々などに広報活動をしている。また町内行事「町内清掃」に参加し、日常的な交流の継続が出来るように取り組んでいる。	地域の人達と一緒に、敷地内の駐車場で地元の野菜などを販売していた。震災後はあまり行われていないが継続出来るように働きかけている。施設広報をコミュニティーセンターや地域包括センターなどに配布し、日常的に交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	隣接にあるケアハウスと、行事がある毎に施設間でお客様同士交流を図っている。地域へ買い物などへ出かける活動を行っています。今後は町内会に入り地域行事への参加を行っていく予定です。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議において活動やサービス状況を報告し、意見、要望を受け今後のサービス向上に向け取り組んでいる。	会議で出された地域との交流についての意見により、学校避難の家になったり、老人会に働きかけするなどして、地域と密着したサービスの向上に取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の担当の方に、必要に応じ相談に乗っていただいたりアドバイスを頂きケアの向上に努めている。	日頃から市役所の高齢福祉課に出向いたり、電話したりして、状況報告や相談に対してのアドバイスをもらっている。震災時は、二日間断水があったが、市役所と連絡を取り合い、迅速に対応してもらって給水を受けた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事故防止委員会にてヒアリング・事故報告の検討と合わせ、身体拘束につながるケアを行っていないか話し合っている。介護や入浴の際、身体に変化が無いかなどの観察を行っている。玄関の施錠に関しては、防犯上、夜間から朝までとしている。	事故防止委員会の中で、身体拘束について検討し、何が身体拘束に当たるかを確認し合いながら、職員の意識を高め、共有し、拘束しないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員対象に会議等で虐待防止の徹底を図っている。外部研修又は内部研修において、虐待防止に対する意識の向上を図っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	「地域福祉権利擁護事業」「成年後見制度」等について、人権擁護に関する理解を得るために勉強会を行う予定。(平成24年1月予定)		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解約時はご本人様やご家族様に分かりやすく説明を行い不安や疑問がないかを尋ね、理解、納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	お客様との会話や家族会の実施を通しご意見等を頂く機会を作っております。また事業所に意見箱を設置したり、面会時や運営推進会議で気軽に意見を出してもらえるように促している。	家族とは、面会時など、何でも話せる雰囲気作りに努めている。利用者の生活状況を、連絡ノートや手書きの手紙にして、知らせている。玄関には、意見箱を設置しており、家族が意見をいつでも出せるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員の声に耳を傾け、話しやすい環境を作ることで意見や提案をサービスの改善等に活かすことが出来るよう努めている。また、年に数回本部役員との面談を行い職員が直接意見交換が出来るような機会作りを行っている。	管理者と職員と一緒に仕事を行い、同じ目線で意見や気づきなどを、話し合えるよう工夫している。日常的に会話し、改善出来ることは、すぐ意見を取り入れ実行している。アセスメントなども職員と一緒に話し合い、作成している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員も資格取得に向けた支援を行い、取得後も資格を十分に活かせるような環境を作りを行う等、職員が意欲を持って働く事が出来るよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人・事業所内で定期的に研修を行い、研修を受講できる機会を設けている。また、職員個人に合わせた研修の選定を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は管理者や職員の積極的な研修参加を支援している。研修を通じ交流を行うことで、サービスの質の向上に活かすことが出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族様見学来訪時、実態調査時、お客様やご家族様の要望や身上を伺い、その思いや不安を受け止め納得のいく説明を十分行いお客様、ご家族様の安心と信頼が得られるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談対応時や実態調査時にに家族が一番困っていることや不安に感じていること、要望等を十分に伺い、安心して頂けるよう信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実態調査でご本人様とご家族様が今必要とされるサービスを把握し本人の背景や緊急性に考慮し他事業所との情報交換を密にしながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ゆったりとした時間の流れを大切にし共に生活し家事を一緒に行ったりしながら暮らしを共にし良好な関係を築いていけるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と密に連絡を取り、良好な関係作りに努めている。面会時などで意見交換を行いお客様本人を共に支える事が出来るようにより良い関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前からの知り合いが会いに来たり、一緒に外出することもある。美容院や病院にいくなどご家族様の協力を得ながらも馴染みの場所へ出かけることもある。	知人や友人が訪ねてきて、共有空間で一緒にレクリエーションを楽しんだり、おやつの時間を過ごしたりしている。馴染みの美容室に送迎してもらって、継続して通うことが出来ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合うお客様同士の良好な関係が築けている。孤立しがちなお客様には職員とののは職員との関わりを通じてコミュニケーションを図りトラブルの調整や良好な関係を保てるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設や医療機関へ移られた方へ面会などに伺っている。サービス終了後も必要があれば連絡相談対応を行っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お客様が感情表現しやすい言葉かけを工夫し、一人ひとりの思いを引き出せるようにしている。なお、ミーティング時に情報を共有しサービス内容に結びつけるようにしている。	共用空間で、利用者と一緒にお茶を飲んだりしながら、表情などから思いをくみ取り、本人の意向の把握に努めている。見守りをして、排泄パターンを掴むことが出来たので、落ち着いた生活が出来るようになり、失禁が少なくなってきた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前情報や実態調査にて、ご本人やご家族様の話を聞くことで、その情報を職員間で共有し、出来るだけご自宅で生活していた様に安心して生活が送れるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝のミーティング・毎月のミーティングでお客様の様子を話し合い情報を共有している。またお客様との日常的な会話の中で、本人に必要な援助の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントを踏まえた上で、ご家族からの意見も取り入れて、チームで話し合いを行い、本人のニーズや必要なケアを見極めて、介護計画を作成している	介護計画は本人、家族、管理者、職員など関係者がミーティングや職員会議、申し送りノートなどに出された意見について話し合い、本人のニーズに合った介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個人別にケース記録、またミーティングや会議で全職員で情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族様のニーズに応じ、外泊や外出など柔軟に対応できるよう支援を行っております。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し、安心して安全に生活が送れるよう、また行事等に参加し、楽しみのある生活が維持できるよう支援しております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時には看護師が同行するなど、ご本人の希望する医療機関へ通院を行う。	入居前からのかかりつけ医へ受診出来るように、支援しており、家族が同行出来ない時は、職員が同行している。状態に変化がある時は、病院へ連絡し、職員が同行して受診し、家族が来るまで付き添っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員はお客様のお身体の状態を日ごろから把握し、異常時等には看護師へ相談、連絡を行う。看護師は受診の必要性など判断し家族連絡やかかりつけ医への連絡をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、サマリーを作成し情報提供を行っております。また、入院時お見舞いに伺い、担当看護師やワーカーに状態の確認を行い把握している。退院前にはカンファレンスに参加し、病院や家族との連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	普段からかかりつけ医やご家族様とこまめに連絡をとり合い、状態に変化が見られた際には速やかに医師・ご家族様、職員で話し合いの場を設け今後の方針を検討している。	重度化や終末期については、本人、家族、病院などと十分に話し合い、今後の方針を決めていくようにしている。利用者、家族の意向に沿って、看取りも行うことができる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応の仕方など研修を通し学んでおります。また、緊急時のマニュアルの整備を行い冷静に対応できるよう体制を整えております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施しております。町内会へ相談し緊急時の応援をご近所の方から受けれるよう働きかけを行っております。	毎月一回、避難訓練を行い、年一回は消防署の指導を受け実施している。町内会に入る予定になっており、地元消防団とも話し合い、災害対策について検討している。非常時には、隣接するケアハウスや近隣に住む職員等の協力も得ることが出来る。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人内研修や施設内勉強会などで、言葉かけについて重点的に指導や対応について教育を行っております。お客様の尊厳を守るよう、職員間で言葉かけや対応などを意識し支援しております。	利用者の生活を大切に考え、人格を尊重し、言葉掛けに注意しながら、対応している。トイレ誘導なども、さり気なく声かけを工夫し行うなど、配慮している。法人内で月一回勉強会を行い、人格を尊重しプライバシーを損ねない対応について、確認している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中での会話で、ご本人様がしたいことなどの話を伺いながら、無理強いでなく自分で希望をかなえられるよう心がけております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の生活パターンに合わせて一日を過ごして頂いております。起床や入床、余暇活動などそれぞれの希望に応じた時間作りのサポートをしております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時や起床時など、ご本人様と一緒に洋服を選び好みの物を着て頂いている。訪問理容を依頼しご希望に沿えるようにしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お客様と一緒に野菜の下ごしらえ盛り付けなど、出来る事を一緒にして調理をし、毎食一緒にテーブルをかねて食事をしております。畑で一緒に作った野菜をメニューに取り入れたりと食事を楽しみの一つとして	利用者が食事の準備、調理の下ごしらえなど積極的に手伝っている。敷地内の畑で採れた野菜も取り入れ、希望のメニューに沿った食材をチラシなどから一緒に選び、買い物に出掛けている。職員と同じテーブルで楽しい食事が摂れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	きざみ食の方に対してはその方に合った食事を提供出来る様努力しております。又、食事量や水分量を毎食記録する事で日々の変化等を把握出来る様にしております。毎月体重測定を行い健康管理を行っております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声かけ又は介助を行っている。就寝時には義歯の洗浄を行い、口腔内の清潔に努めております。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご自分で、排泄を訴えられない方については、失禁が減らせるよう、時間でのトイレ誘導を行っている。ミーティングや排泄委員会で排泄のパターンや行動を検討し対応しております。訴えられる方についてはその都度対応しております。出来るだけ、トイレで排泄できるよう支援しております。	排泄委員会で検討し、一人ひとりのパターンをつかみ、ミーティングや申し送りノートで伝え、職員が共有出来るようにしている。排泄チェック表を使用し、見守り、誘導を行い、尿意の無い利用者に対しては、表情や感情の変化などに気づき、誘導することにより、トイレで排泄出来るように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方や便秘予防の為、水分を多く取ってもらったり、野菜や繊維の多い食事作りに心がけております。入浴後は、必ず水分補給をして頂いてます。出来るだけ薬に頼らない自然排便を心がけております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の回数は、ご本人様のご希望に尊重し対応している。1対1での入浴対応をし、ご本人に合わせてゆったりと入浴していただけるような雰囲気作りをし、お客様の気分にあわせた対応ができるように心がけております。	入浴の日は決まっているが、利用者の希望に沿って入浴出来るように支援している。仲の良い人同士で入浴することもあり、職員は複数で見守り、安心して入浴出来るように心掛けている。入浴時もプライバシーに配慮し、言葉掛けに気を付け、くつろいだ気分で入浴出来るように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人ひとりのペースに合わせて休息して頂いております。夜眠れない時等は職員と話しをしたり、軽くお菓子を食べてり、飲み物を飲んでいただいたりし、安心して休んで頂けるようにしております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容や作用・副作用がいつでも見れるようにしている。また、ミーティング時や、変更があった場合には看護師が分かりやすく情報を掲示しております。飲み忘れ、誤薬のないようにチェックを重ねて行なっている。日常生活や体調の変化についても、通院時に医師へ伝達しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ゴミ捨てや掃除、食器洗い、おしぼりや洗濯物のたたみ方などお客様ににお手伝いをして頂く機会を持っています。お手伝いの協力を頂き感謝を伝えながら生活を感じてもらえるよう支援しております。買い物やドライブなど季節を感じていただきながらレクリエーションが充実出来るよう委員会で計画を立て実行しております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良い日は、散歩に出かけたりしております。お客様の希望に考慮し、そのつど対応しております。また、お客様の馴染みのパーマ屋や床屋など、連絡をとりながら外出の機会を作っております。	レクリエーション委員会では、利用者からの希望を把握し、月一回外出出来るよう計画を立て、紅葉狩りや白鳥見物などに出掛けている。散歩や買い物には日常的に出掛けているが、その日の天候などで行きたい場所があれば出来るだけ希望に沿う様に支援している。家族には連絡ノートやお便りで報告している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で管理されている方もいらっしゃり、通院や買い物、パーマ屋やドライブなど外出をした際に、ご自分のお金で買い物をされたりしております。施設で立て替え買い物等をされる方もいらっしゃいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望のあった際には対応しております。ご家族様やご友人から電話などがあった際にも、話ができるように支援している。手紙など一緒に書きポストに投函することもあります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度・湿度に留意しながら、今までの生活習慣に基づいた支援をし、居心地のよい環境と一緒に作り上げるようにしている。季節を感じていただけるよう、創作した作品を展示したり、季節の花を飾ったりしております。	自宅のような雰囲気を大切に部屋づくりに心がけ、利用者の作品を飾ったり、囲炉裏や畳の部屋、観葉植物、花などが置かれ、居心地良く過ごせるよう工夫している。厳しい冬のために床暖房他の寒さ対策も行い、加湿器を使用して、健康管理にも気を配っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お客さま同士の相性を考慮し、穏やかに過ごしていただけるよう、職員が間に入り見守りをさせていただいております。お昼寝なども自由に出来るよう和室の提供もしております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはお客様の使い慣れた馴染みのタンスなど配置し、思い出の写真、置物等、その人らしく家庭的な雰囲気を味わっていただけるように入居時にご家族様に説明し、ご協力頂いております。	居室には、自分で作った作品を飾ったり、タンスや仏壇なども置かれ、自宅のような雰囲気で居心地良く過ごせるように工夫している。部屋から外にも自由に出入れて、気分転換を図ることが出来るようになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴室には手すりが設置され、動線にはシルバーカーや車いすを使用しても十分なスペースが確保されるよう障害物を置かないよう配慮しております。ご本人様になるべくご自分で行えることはして頂き、足りない部分の援助をさせて頂くよう職員で統一したケアに心掛けております。		